

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|---------------|
| 建物名称 | (仮称)ホテルルートイン京都西舞鶴 | 階数 | 地上10F |
| 建設地 | 京都府舞鶴市字引土小字笹浪235- | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | XX 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | XXX 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | ホテル | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2022年11月 予定 | 評価の実施日 | 2021年7月22日 |
| 敷地面積 | 2,235 m ² | 作成者 | 高元 智明 |
| 建築面積 | 834 m ² | 確認日 | |
| 延床面積 | 5,521 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 71% (130 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 71% (130 kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 71% (130 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 (Q1のスコア=3.3)

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 3.7 |
| 温熱環境 | 3.1 |
| 光・視環境 | 2.8 |
| 空気質環境 | 4.0 |

Q2 サービス性能 (Q2のスコア=3.2)

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 3.4 |
| 耐用性 | 3.4 |
| 対応性 | 2.6 |

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア=2.3)

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 2.0 |
| まちなみ | 2.0 |
| 地域性・ | 3.0 |

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー (LR1のスコア=4.2)

| | |
|-------|-----|
| 建物外皮の | 5.0 |
| 自然エネ | 3.0 |
| 設備システ | 5.0 |
| 効率的 | 2.0 |

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア=2.9)

| | |
|--------|-----|
| 水資源 | 3.4 |
| 非再生材料の | 2.5 |
| 汚染物質 | 3.6 |

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア=2.7)

| | |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 3.0 |
| 地域環境 | 2.5 |
| 周辺環境 | 2.7 |

3 設計上の配慮事項

| 総合 | その他 |
|--|--|
| <p>外部に面する断熱材をt30~50発泡ウレタン吹付とし、サッシはペアガラスとすることで、外気影響による室内の温度変化を少なくし、快適な室内環境となるよう設計した。また、外気影響を少なくすることで空調設備のエネルギー消費量の削減を図った。</p> | |
| <p>Q1 室内環境 客室は界壁の遮音壁(TLD-56)とし、騒音の軽減を図った。 空調はゾーンごとに制御でき、快適な室内空間となるよう配慮した。</p> | <p>Q2 サービス性能 内装は防汚性の高い建材を使用し、維持管理しやすい建物となるよう設計した。 耐用年数の長い構造体や仕上げ材の採用に努めた。</p> |
| <p>LR1 エネルギー 屋上に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを交換利用することでエネルギー消費量の削減を図った。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル 節水型の機器を採用し、省エネに配慮した設計とした。</p> |
| | <p>Q3 室外環境(敷地内) できる限り敷地内に緑地を計画した。</p> |
| | <p>LR3 敷地外環境 十分な駐車施設を敷地内に確保することで周辺の交通に配慮した。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される